

地域における母子感染予防の現況

矢野右人, 八橋 弘, 岩波栄逸
井上長三, 古賀満明

要約: 佐賀県における妊婦のHBs抗原陽性率は1.8%と全国平均よりも高い陽性率であった。HBe抗原陽性の妊婦より出生し、母子感染予防処置をうけた児のHBs抗原陽性率は9%であった。HBs抗原陽性児の多くが生後2カ月までに陽転していることから、今後の母子感染予防対策はHBIG投与法に対する改善が必要である。

見出し語: 佐賀県、母子感染予防

(目的と対象) B型肝炎母子感染予防対策事業が実施されて6年が経過した。各自治体より実施状況の報告がなされているが、行政レベルでは単年度事業であることより、年をまたがった成績評価がなく、また、詳細な検討がなされていないことが多い。佐賀県においては追加ワクチン接種のスケジュールを組むことで、年度を越えたfollowを可能とし、個々の児に対する追跡調査をおこなってきた。過去5年間の佐賀県におけるHB妊婦検診状況と、佐賀県B型肝炎母子感染防止対策事業に指定された7つの医療機関からの追跡報告を集計、分析をおこなった。

(結果) 年間約1万人の妊婦のうち、91%がHBs抗原検査を受診し、HBs抗原陽性率は1.8%、うちHBe抗原陽性率は23%であった。過去5年間の妊婦の受診状況の推移は、近年ほど高い受診率を呈していた。母子感染予防処置をうけた児は179名で、最終観察時点でHBs抗原陽性であった児は17名(9%)であった。うち82%は生後2カ月以内にHBs抗原が陽転化した。母子感染予防処置をうけた児の90%は1年以上の経過観察がなされた。生後1年時では18%の児にHBs抗体の消失がみられ、抗体消失者の91%に追加ワクチン投与がなされた。

国立長崎中央病院臨床研究部; Nagasaki Chuo National Hospital
Institute for Clinical Research

佐賀地方の母子感染予防の現況

妊婦検診状況

	妊 婦	S60	S61	S62	S63	H 1	合 計
	HBs抗原						
A	受診票交付人数	8588	10987	10458	9875	9672	49580
B	受診人数	6684	10349	9748	9348	9066	45195
C	受診率(B/A) %	78	94	93	95	94	91
D	陽性者数	110	180	192	143	178	803
E	陽性率(D/B) %	1.6	1.7	2.0	1.5	2.0	1.8
	HBe抗原						
F	受診人数	87	161	189	143	178	758
G	受診率(F/D) %	79	89	98	100	100	94
H	陽性者数	19	49	44	28	35	175
I	陽性率(H/F) %	22	30	23	20	20	23

乳幼児予防処置状況

	児	S60	S61	S62	S63	H 1	合 計
A	対象児数	15	43	50	37	34	179
B	キャリアー人数	2	2	2	6	5	17
C	キャリアー率 (B/A) %	13	5	4	16	15	9
D	キャリアー成立時期 新生児	1	1	2	1	0	5(29%)
E	“ 2ヶ月まで	0	1	0	3	5	9(53%)
F	“ 1年時まで	1	0	0	2	-	3(18%)

乳幼児1年以上follow例の状況

G	1年以上follow人数	13	38	46	33	-	130
H	1年以上follow率(G/A) %	87	88	92	89	-	90
I	1年時 HBsAg(+)	1	0	0	3	-	4(3%)
J	“ HBsAb(+)	10	28	39	26	-	103(79%)
K	“ HBsAb(-)	2	10	7	4	-	23(18%)
L	1年時追加の接種投与人数	1	10	7	3	-	21
M	1年時追加の接種投与率(L/K) %	50	100	100	75	-	91

キャリアー成立例

No	新生児		2ヶ月時		3ヶ月時	5ヶ月時	1年時	
	HBsAg	HBIG	HBsAg	HBIG ワクチン	ワクチン	ワクチン	HBsAg	HBsAb
1	+	有						
2	-	有	-	有	有		+	
3	+	有						
4	-	有	+	無				
5	+	有	+	無				
6	+	有						
7	-	有	-	有	有	有	+	+
8	-	有	+	無			+	-
9	-	有	-	有	有	有	+	-
10	-	有	+	無				
11	-	有	+	無				
12	+	無	+	無			+	-
13	-	有	+	無				
14	-	有	+	無				
15	-	有	+	無				
16	-	有	+	無				
17	-	有	+	無				

(考察) 佐賀県における妊婦のHBs抗原キャリアー率は1.8%で、全国平均の1.2～1.4%と比較して高率であった。近年HBs抗原キャリアー率の減少が報告されているが、全国的に減少したなりに現在も西高東低の分布が存在していることがうかがえる。母子感染予防をうけたにもかかわらず、児の9%においてHBs抗原陽性化がみられた。従来我々が報告してきた対象児でのHBキャリアー移行率57名/1379名(4.1%)より高値であるが、佐賀県におけるHBs抗原陽性児のfollowが十分でなく、これらの中から一過性感染例がでてくる可能性があることより、真

のHBキャリアー率は9%より低いと想定される。HB抗原陽性時期は82%が生後2カ月までに陽性となっていることより、HBキャリアーをさらに減少させるためには、HBワクチン投与方法よりもHBIG投与方法に対する改善が今後、必要であると思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:佐賀県における妊婦のHBs抗原陽性率は1.8%と全国平均よりも高い陽性率であった。HBe抗原陽性の妊婦より出生し、母子感染予防処置を受けた児のHBs抗原陽性率は9%であった。HBs抗原陽性児の多くが生後2ヵ月までに陽転していることから、今後の母子感染予防対策はHBIG投与方法に対する改善が必要である。